市川中

見方・考え方を働かせながら、
自分の考えを広げ深める学習指導の在り方

～言語活動と振り返りの場の設定の工夫を通して～

（４年計画の３年次）

校長　　老久保　智

１　研究主題について

本校は、新学習指導要領において、学習内容を学ぶことで「何ができるようになるか」という視点を重視するとともに、「資質・能力」を育むための、各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすのが「見方・考え方」と捉え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んできた。しかし、一年目は、教育指導課・総合教育センター訪問の縮小実施や校内での研究授業を行うことができず、校内研究のテーマに迫った研究が思うようにできなかったため、４年計画で取り組むことに変更した。昨年度は、教科ごとに「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面の設定の工夫をして授業を実践し、アンケートにまとめて共有した。今年度は、共有して見つかった課題を、教科部会や他教科のものを参考にしながら工夫改善に努め、課題解決する方法を探る年にしたい。

２　研究のねらい

自分の考えを広げ深める学習指導の在り方を、各教科ごとに「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定していくかを授業で工夫すること、言語活動を取り入れ論理的な思考場面を取り入れること、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を工夫して設けることを通して明らかにする。

３　研究仮説

(1) 各教科ごとに「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定していくかを授業で工夫することと、言語活動を取り入れ論理的な思考場面を設定することで、知識・理解の質を高め資質・能力を育むことができる。

(2) 生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を工夫して設けることで、目標をもって学習に向かう姿勢や多面的、多角的にものごとを捉え考える力を養うことができる。

４　研究内容

(1) 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせやすい学習課題を設定した授業を実践する。また、言語活動を取り入れ、論理的な思考場面を設定する。

(2) 授業の中に振り返りの場を設定し、「何ができるようになったか」を明確にし、次への意欲につなげるようにする。教科部会や他教科から得られた振り返りシートなどを参考に活用し、変容を見取る評価の方法を工夫する。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
５	３１	第１回授業研究（要請訪問）　３年数学　授業者　佐藤　直樹 講師　馬渡　正仁（八戸市教育委員会教育指導課主任指導主事） 題材名　１章　式の展開と因数分解　２節　式の計算の利用 「Ｓ＝ａℓ」の証明
１１	１５	第２回授業研究（二年次研修）２年社会　授業者　中村　鴻作 題材名「欧米の近代化に対して幕府はどのように対応すべきか」

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
５	１１	教育指導課・総合教育センター訪問の指導案の書き方に関する研修
６	１	観点別評価と５段階評価の整合性に関する研修
７	６	指導と評価の一体化 振り返り場面を効果的に取り入れた授業づくりに関する研修 講師　日向端　聖（八戸市教育委員会教育指導課副参事）
８	１７	ＮＲＴの分析（教科部会）
２	１	振り返りシート等の活用方法に関する研修 次年度における校内研修研究主題の確認

６　研究の成果

(1) 授業のねらいに即した言語活動を取り入れることが、以下のことにつながった。

①思考の段階を明確にした言語活動を展開することにより、聞き手にわかりやすく論理的に自分の考えを表現できる生徒が増えた。

(2) 振り返りの場を効果的に取り入れることが、以下のことにつながった。

①自分の考えを話す様子を動画撮影して振り返る機会を設けることで、生徒がより良い表現方法を模索する意欲につながった。

②小テストと振り返りシートを組み合わせて活用することで、理解が不十分だったところを、自らノートを見て復習する生徒が増えた。

③振り返りシートを活用し、教師が適切な見取りや助言をすることで、生徒が自分の学びを客観的に見ることにつなげることができた。

７　研究の課題

(1) 「思考を広げ深める」ために、各教科で具体的にどのような取組をするかを明示して授業実践を進める。教科間の見せ合い授業を通して、さらに授業改善に努めていきたい。

(2) 授業の導入から課題設定までの教師の働きかけについて全教員で共通理解し、生徒が必要感をもって問題解決に向かう授業づくりをしていく必要がある。

（記入者　　川村　昌子）